

WTO 閣僚会議 (MC12) における COVID-19 ワクチンに対する知財保護免除の合意に失望 —EFPIA および Vaccines Europe

2022年6月17日に欧州の *European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations (EFPIA)* が発表したステートメントを日本語に翻訳したものです。本ステートメントの正式言語は英語であり、その内容およびその解釈については英語を優先します。[原文](http://www.efpia.eu)は、www.efpia.eu をご参照ください。

新型コロナウイルス (COVID-19) ワクチンに関する知財保護の免除について、欧州製薬団体連合会 (EFPIA) の ナタリー・モル理事長は次のように述べています。「知財保護の免除に関する合意は、COVID-19 によるパンデミックおよびグローバルヘルスに対する将来の脅威への対策を大きく後退させるものです。この2年間で、パンデミックへの唯一の効果的な対策は、研究開発とイノベーションに根ざしたものであることが明らかになっています。そのイノベーションは、揺るぎない知的財産権の枠組みによって成り立つものです」

世界貿易機関 (WTO) 閣僚会議 (MC12) の決定は、製薬産業のみならず、イノベーションに関わるあらゆるセクターを脅かすものです。COVID-19 に対する解決策をもたらす、パンデミックにおいて記録的な速さで行われた前例のない多数のパートナーシップや自主的なライセンス供与、知見の共有を促進してきた、まさにその枠組みを取り崩すことは、将来の対策にも影響を及ぼす可能性があります。

COVID-19 ワクチンに関する「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定」(TRIPS) の免除は、誤った問題を誤った方法で解決しようとするものです。知的財産権は、前例のない速さで安全で効果的なワクチンを開発し、その生産を拡大することを支え、これまでに 139 億回分の COVID-19 ワクチンの生産を可能としてきました。知的財産権の枠組みは、COVID-19 ワクチンに関する 380 件以上の自主的なパートナーシップ (そのうち 88% が技術移転を伴うもの) を記録的なスピードで設立するための基盤となりました。モル理事長は、「ワクチンの公平性を妨げているのは、私たちのワクチン生産能力ではなく、世界中でワクチン接種プログラムを実施するためのキャパシティやインフラ、そして時には貿易障壁なのです。それこそが、国際社会が取り組むべき課題であり、現在と将来のパンデミックに対する解決策を見出し、開発し、提供しようとするイノベーターの原動力を阻害してはなりません」と述べています。

欧州製薬団体連合会 (EFPIA, European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations) について (<http://www.efpia.eu>)

ベルギーの首都ブリュッセルに本部を置く EFPIA は、欧州でビジネスを展開する製薬産業を代表する団体です。欧州各国の 36 の製薬業界団体や欧州で展開する 39 の大手製薬企業の会員を通して、世界の人々の健康と生活の質 (QOL) を改善する新たな治療薬を研究開発し、患者に届けることにコミットしている欧州企業の声を代弁しています。



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

お問い合わせ先：

木戸口結子

EFPIA Japan 広報委員会

〒100-8268 東京都千代田区丸の内 1-6-5

バイエルホールディング株式会社

Tel: 03-6266-7757

Email: yuko.kidoguchi@bayer.com